

令和7年度
建設業社会貢献活動推進月間

～ 功労者表彰受賞者名簿・受賞事例概要 ～

令和7年7月24日
一般社団法人 全国建設業協会

目次

1. 建設業の社会貢献活動と中央行事について	1
------------------------	---

2. 受賞者名簿	3
----------	---

社会貢献・SDGs功労者表彰	3
----------------	---

広報功労者表彰	5
---------	---

3. 受賞事例概要	7
-----------	---

社会貢献・SDGs事例概要<<第3条(協会・支部)>>	7
-----------------------------	---

社会貢献・SDGs事例概要<<第4条(会員企業)>>	14
----------------------------	----

広報活動事例概要<<第3条(協会・支部)>>	19
------------------------	----

広報活動事例概要<<第4条(会員企業)>>	21
-----------------------	----

1. 建設業の社会貢献活動と中央行事について

企業の社会的責任（CSR）は、企業活動のプロセスに経済性や法令遵守にとどまらず、環境への配慮や社会的倫理性などを組み込み、様々なステークホルダー（利害関係者）に対する説明責任を果たすことにより、社会から信頼を受け、事業を継続的に発展させる活動ですが、近年このCSRが企業評価の重要な要素となっています。

建設産業は、社会資本の整備を通じ、「国土の保全」、「地域の安全・防災」、「利便性の高い暮らし」等を実現し、社会に貢献してきました。本会傘下の各都道府県建設業協会並びに会員企業は、地域の基幹産業である建設業の社会的責任と使命を強く認識し、地域経済の活性化、雇用の確保に貢献するのみならず、国・地方自治体との災害協定に基づき、災害発生時には、住民の安全・安心を確保するため、不眠不休で応急復旧活動に取り組んでいます。しかしながら、このような地域建設業の取り組みは、マスコミ等において正しく報道される機会が少なく、建設業界も積極的なPR活動を行ってこなかったため、国民・社会にあまり知られていない状況にありました。

このため、本会では、平成18年度より毎年7月を「建設業社会貢献活動推進月間」と定め、月間期間中の活動の一環として、各都道府県建設業協会並びに会員企業と連携し、地域建設業界の実践している幅広い社会貢献活動及び広報活動を国民・社会に広くアピールするため、毎年中央行事を開催しております。中央行事では各地域で実践された様々な社会貢献活動と、建設業のイメージアップ広報活動について各都道府県建設業協会を通じて広く収集し、優れた活動事例については、全建表彰規程に基づき表彰部会での厳正な審査・選考を経て、功労者表彰として顕彰を行っております。

この度、令和7年度の中央行事の開催にあたり、各都道府県建設業協会から様々な社会貢献・SDGs活動、広報活動をご推薦いただき、表彰部会において厳正な審査を行った結果、建設業協会・支部等を対象とした社会貢献・SDGs活動を第3条関係で26事例、会員企業を対象とした第4条関係で20事例、広報活動は第3条関係で8事例、第4条関係で11事例、計65事例の受賞が決定しました。

○表彰事例について

◆本会会員(各都道府県建設業協会)に対する表彰

全建表彰規程第3条1号「積極的に社会貢献活動等に努め、他の団体の模範となる会員」に基づき表彰

◆地方協会の会員(会社又は個人の営業所)の社会貢献活動等に対する表彰

全建表彰規程第4条5号「積極的に社会貢献活動等に努め、その功績が顕著な会員」に基づき表彰

◆活動の期間等

令和6年4月1日～令和7年3月末日の期間に、主体的かつ継続的に原則3年以上実施した事例

◆社会貢献活動等の内容

○ 社会貢献・SDGs功労者表彰

◆災害復旧・防疫活動

自然災害（地震、台風、豪雨・豪雪等）における応急復旧活動、土砂・流木処理・除雪対応、救助活動、防疫活動等

◆防災支援活動

自治体等との防災訓練の実施・協力、各種パトロール活動、消防団活動等

◆地域活性化への取組

まちづくりや地域イベントへの協力、建設企業活動等を通じて快適な地域生活の創出や雇用の確保等地域活性化に向けた活動等

◆環境美化・保全活動

河川・道路等の清掃活動、森林・公園等の環境美化・保全活動、植林・植樹・植栽、ビオトープ等

◆社会福祉活動

献血活動、社会福祉施設等への協力活動、子ども110番、地域パトロール等の防犯活動等

◆SDGsへの取組

SDGs宣言等を行い、SDGs達成に資する優れた取組等

◆その他

その他社会の貢献に資する活動

○ 広報功労者表彰

◆建設業ふれあい活動

親子現場見学会の開催、建設機械試乗体験、児童を対象とした工作・木工・絵画教室等の実施、建設フェアの開催等

◆SNS、映像、メディアによる広報活動

SNSを活用した広報活動、テレビ・ラジオ番組への出演等

◆広報ツール、アイテムの活用による広報活動

キャッチコピー、オリジナルキャラクターの設定、配布物などによる広報活動等

◆商業広告による広報活動

テレビ・ラジオCMの作成、電車やバス、駅などへのポスター掲示、その他広告の出展等

2. 受賞者名簿

■社会貢献・SDGs功労者表彰

[規定第3条関係] 協会・支部 ……26団体

災害復旧・防疫活動 ◇災害復旧活動	一般社団法人 福島県建設業協会 若松支部	福島県
	一般社団法人 埼玉県建設業協会 越谷支部	埼玉県
	一般社団法人 三重県建設業協会 尾鷲支部	三重県
	一般社団法人 石川県建設業協会	石川県
	一般社団法人 滋賀県建設業協会 長浜支部	滋賀県
	一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会 延岡地区建設業協会	島根県 宮崎県
	一般社団法人 岩手県建設業協会 盛岡支部	岩手県
災害復旧・防疫活動 ◇防疫活動	一般社団法人 岩手県建設業協会 久慈支部	岩手県
	一般社団法人 岩手県建設業協会 二戸支部	岩手県
	一般社団法人 茨城県建設業協会 水戸支部	茨城県
	一般社団法人 茨城県建設業協会 常総支部	茨城県
	一般社団法人 群馬県建設業協会 前橋支部	群馬県
	一般社団法人 千葉県建設業協会	千葉県
	一般社団法人 新潟県建設業協会 新発田支部	新潟県
	一般社団法人 岐阜土木工業会 高鍋地区建設業協会	岐阜県 宮崎県
	串間市建設業協会	宮崎県
	一般社団法人 栃木県建設業協会 芳賀支部	栃木県

	一般社団法人 群馬県建設業協会 館林支部	群馬県
	一般社団法人 塩山建設業協会	山梨県
	一般社団法人 岐阜県西濃建設業協会	岐阜県
地域活性化への取組	北秋田建設業協会 若葉会	秋田県
環境美化保全活動	一般社団法人 栃木県建設業協会 鹿沼支部	栃木県
	一般社団法人 金沢建設業協会	石川県
社会福祉活動	一般社団法人 揖斐建設業協会	岐阜県

[規定第4条関係] 会員企業 …20社

災害復旧・防疫活動 ◇災害復旧活動	株式会社 近藤組	愛知県
防災支援活動	株式会社 前田建設	鹿児島県
地域活性化への取組	西田工業 株式会社 大阪本店	大阪府
環境美化・保全活動	株式会社 太田組	宮城県
	岩澤建設 株式会社	栃木県
	上原建設 株式会社	群馬県
	植野興業 株式会社	山梨県
	富士島建設 株式会社	山梨県
	内藤建設 株式会社	岐阜県
	株式会社 大野組	滋賀県
	株式会社 大城工業所	兵庫県
	三宅建設 株式会社	兵庫県

社会福祉活動	丸彦渡辺建設 株式会社	北海道
	県北緑化 株式会社	岩手県
	株式会社 佐藤組	岩手県
	小白川建設 株式会社	山形県
	塩谷建設 株式会社	富山県
	株式会社 藤井組	富山県
	株式会社 銭高組 大阪支社	大阪府
SDGsへの取組	株式会社 中屋敷建設	青森県

■広報功労者表彰

【規定第3条関係】 協会・支部 …8団体

建設業ふれあい活動	一般社団法人 甲府地区建設業協会	山梨県
	一般社団法人 身延建設業協会	山梨県
	一般社団法人 長野県建設業協会 青年部会	長野県
	一般社団法人 静岡建設業協会	静岡県
	一般社団法人 三重県建設業協会 志摩支部	三重県
	一般社団法人 羽咋郡市建設業協会	石川県
	一般社団法人 若狭地区建設業会 建設青年委員会	福井県
広報ツール、アイテムの活用による広報活動	一般社団法人 栃木県建設業協会 日光支部	栃木県

【規定第4条関係】 会員企業 …11社

建設業ふれあい活動	株式会社 オオバ工務店	福島県
-----------	-------------	-----

	株式会社 竹島建設	三重県
	戸田建設 株式会社 大阪支店	大阪府
	福井建設 株式会社	兵庫県
	株式会社 井原組	山口県
	淵脇建設 株式会社	鹿児島県
SNS、映像、メディア による広報活動	株式会社 斉藤組	富山県
	株式会社 山藤建設	鹿児島県
広報ツール、アイテムの 活用による広報活動	株式会社 加藤建設	愛知県
商業広告による広報活動	草野作工 株式会社	北海道
	安達建設 株式会社	富山県

3. 受賞事例概要

社会貢献・SDGs事例概要 《第3条(協会・支部)》

令和7年2月の福島県会津豪雪における除排雪活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 福島県建設業協会 若松支部（福島）

令和7年2月の強烈な寒波は福島県会津地方にも記録的な大雪をもたらした。

協会若松支部の会員企業は、県会津若松建設事務所から災害協定に基づく支援要請を受け、唯一無二の地域の守り手としての揺るぎない使命感のもとで、主要幹線道路や第二次救急医療病院へのアクセス道路、生活上の支障のある狭隘道路等を優先に、昼夜の区別なく除排雪作業を進めた。

また、既存・臨時の排雪場の運営（交通誘導、雪寄せ）を受託し、円滑な管理運営を実施した。

さらに、県土木部から協会本部が全県的な広域支援の要請があったことを受け、中通り地方の各支部の会員企業を派遣し、若松支部が、これらの派遣部隊を指揮下におさめ、迅速な除排雪作業に貢献した。



道路陥没事故応急対策

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 埼玉県建設業協会 越谷支部（埼玉）

令和7年1月に八潮市内で発生した道路陥没事故にて、災害協定に基づき、埼玉県より協会越谷支部へ出動要請があったため、即座に出動・対応し、現在も活動を行っている。

活動内容としては、陥没現場へ流れている水路（大正幹線など）の閉塞、規制看板などの設置、陥没崩壊した下水道の水位低下を目的としたバイパスとポンプの設置、下水パイパスのためのピット作成と養生、近隣対策の脱臭装置設置、目隠しシートと防音壁設置、下水道の水位低下を目的としたバイパスの追加設置、雨水水路が陥没による閉塞を起こしているため迂回水路を使用するにあたっての水路清掃とポンプ設置等を行っている。

これらの活動により事故対応に貢献し、現在も現場は対策中のため、協会支部として今後も対応を行っていく予定である。



紀北町に漂着した鯨体の埋設処理

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 三重県建設業協会 尾鷲支部（三重）

令和6年4月に紀北町島勝浦の海岸近海で、体長約13.6メートルのマッコウクジラが海岸岩場に打ち上げられた。その後、県尾鷲建設事務所より協会尾鷲支部に災害協定に基づく協力要請があり撤去作業を行う事となった。

ワイヤーロープを取り付けた鯨をクレーン付き作業船で牽引し、岩場から海に移動させ、その個体を作業船により砂浜まで運び、事前に掘っておいた埋設場所に4台のバックホウで引揚げ及び埋設作業を完了した。また、埋設場所周辺には立入禁止バリケードと看板を設置した。

鯨体の漂着により、周辺海域への汚染や地域住民への不安が懸念される中、早急な対応により作業することができた。

また、数年後に鯨の骨が掘り起こされ、骨格標本として活用されることとなっている。



令和6年9月奥能登豪雨における災害復旧支援活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 石川県建設業協会（石川）

令和6年9月21日から23日にかけて発生した令和6年9月能登半島豪雨において、石川県建設業協会は22日に「奥能登豪雨災害対策本部」を設置し、翌日から県内9地区協会と連携、復旧支援活動を開始した。

各地区協会のうち、被害が大きかった奥能登地域の鳳輪、珠洲の2地区協会は、管内での復旧活動に加え、被害がほとんどなかった金沢、七尾鹿島、羽咋郡市、河北郡市、白山野々市、小松能美、加賀の7地区協会の会員企業を中心に道路啓開、河川護岸補修、立木処理等の復旧支援活動に取り組み地域の安全安心を守る、建設業団体として災害復旧に貢献した。



米原市伊吹地先土砂災害 災害復旧支援活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 滋賀県建設業協会 長浜支部（滋賀）

令和6年7月の豪雨により、土石流が米原市の集落や県道及び私道に流出し、米原市が緊急安全確保（警戒レベル5）を発令したことから、県長浜土木事務所は協会長浜支部に応援協力を要請し、流出土砂や堆積土砂の撤去作業に迅速に対応した。

また、県の要請によって国交省から対策の助言があったことから、復旧に应急土砂止工（強靱ワイヤーネット等）の設置を緊急対策として対応した。

後日、長浜支部には県長浜土木事務所と県湖北環境事務所の連名による感謝状が贈呈された。



大社日御碕線の道路崩落への応急対応

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会（島根）

令和6年7月、主要地方道 大社日御碕線が豪雨により路面が崩落し通行不可能になり、出雲市内の日御碕地区が孤立状態となったため、島根県出雲地区建設業協会は災害協定に基づき、バリケード等の設置や交通整理など24時間体制で対応に当たった。

また、県から大型土嚢600袋の要請があり、休日返上して会員企業が分担して製作を行った。

その後、段階的な仮設迂回道路の整備を行ったことで、12月に大型車両を含む全ての一般車両が通行可能となった。



延岡市浦城町の土砂災害対応

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

延岡地区建設業協会（宮崎）

令和6年10月に発生した延岡市浦城町の土砂災害に対して、延岡地区建設業協会が24時間体制で地域総合メンテナンス業務に従事し、崩壊土砂の除去や仮復旧作業に貢献した。

また、土砂災害の被害者の捜索並びに救出活動を4日間で4社で実施し、本捜索・救出活動に従事した企業に対し、県延岡土木事務所より感謝状を授与された。



高病原性鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 岩手県建設業協会 盛岡支部（岩手）

協会盛岡支部は、令和7年1月に管内で発生した3例の鳥インフルエンザについて、協定に基づき、採卵鶏、餌・糞、防護服などの運搬及び埋却作業の防疫対応を実施した。

【対応期間】

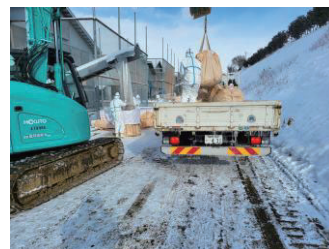
①R7.1.2～1.7 ②R7.1.11～1.17 ③R7.1.22～1.31

【殺処分数】

①12万羽、埋却数(フレコンバック)794袋
②40万羽、埋却数(フレコンバック)2,578袋
③66万羽、埋却数(フレコンバック)4,918袋

【対応会員数】

①6社延べ132人 ②16社延べ368人 ③23社延べ732人



豚熱による防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 岩手県建設業協会 久慈支部（岩手）

令和6年5月、管内の養豚農場において豚熱の疑いのある豚が発熱後死亡したことから県との協定に基づき協力要請があった。

埋却地は同施設内の雑種地で雑木林であったため、測量、伐木、伐根、試掘、仮設道路準備等、埋却溝掘削の準備とともに、夜間から始まった処分豚の運搬作業にあたった。

長期間にわたる防疫作業のため、久慈支部全社に協力を求め、バックホウ、キャリアダンプ等、使用重機は20台、延べ1,228人が従事し、発生から25日目に埋却作業が終了。最終的な処分頭数は19,780頭であった。

作業にあたり、埋却溝の湧水や溜水、近隣からの苦情、腐敗臭の発生、急な気温上昇による熱中症対策など柔軟な対応を求められた。

久慈支部では迅速な初動態勢がとれるよう、常に災害対応組織力の強化を心掛けており、今回の防疫作業においても発揮することができた。



高病原性鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 岩手県建設業協会 二戸支部（岩手）

協会二戸支部は、令和7年1月に管内で発生した鳥インフルエンザについて、協定に基づき、殺処分した雛鳥、餌・糞、防護服などの運搬及び埋却作業の防疫対応を実施した。

【対応期間】
R7.1.5～1.8

【殺処分数】
5万羽

【対応会員数】
18社延べ127人



豚熱防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 茨城県建設業協会 水戸支部（茨城）

令和7年3月、茨城町の養豚場で豚熱の感染が確認された。

県との協定に基づき、重機等資機材の手配、水戸支部土木委員会11社、延べ18名の作業員を、防疫活動のため現地に派遣した。

防疫活動は、2日間行われ、処分するための埋却地掘削、埋却物運搬・埋却・埋戻し、片付け等の作業を実施した。



八千代町鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 茨城県建設業協会 常総支部（茨城）

令和6年12月、八千代町の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生した（108万羽）。

協会常総支部は、県との協定に基づき、埋却作業を実施するためバックホウ・敷鉄板の搬入等の準備を行い、現地にて支部会員が埋却作業に入った。

農場と埋却地の距離が6kmと離れており、積込や移動に時間を非常に要したが、農場内の鶏・飼料・卵の処分の埋却作業を常総支部内にてすべて終えることができた。

約20日間にわたり年末年始の多忙な時期ではあったが支部会員が一丸となり、延べ227名が埋却作業に従事した。

今後も地域社会の守り手、砦としての責務を全うできるよう役割を果たしていく。



群馬県前橋市の豚熱(CSF)防疫作業

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 群馬県建設業協会 前橋支部（群馬）

令和7年1月、前橋市内の畜産農家から群馬県に豚熱の疑いの通報があり、県と国による検査を経て豚熱が確定。協会前橋支部は、県との協定に基づき連絡を受け作業を開始した。

会員企業はローテーションを組み埋却溝掘削や殺処分した豚の運搬・埋却、目隠しフェンスの設置などに従事した。会員企業13社から作業員延べ184名を動員し作業を完了した。



大規模鳥インフルエンザ発生に伴う防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 千葉県建設業協会（千葉）

令和7年1月に銚子支部は、銚子市内で高病原性鳥インフルエンザに罹患した疑いのある採卵鶏が確認されたという情報を受け、協定に基づき、人員配置や資機材等の手配など防疫措置の準備体制を整えた。そして、疑似家畜であることが判明したことを受け、現地調査、掘削及び埋設作業等に尽力した。

しかし、この一例だけにとどまらず、県内で高病原性鳥インフルエンザが15例も立て続けに発生した。なかには1日の間に複数の農場で発生するケースもあるなど、急激な速度で3市管内の農場に拡大した。

この感染拡大に伴い、銚子支部、八日市場支部、香取支部の3支部が地域の守り手として、強い連帯感をもって防疫作業にあたった。今回の処分対象が約300万羽を越え、令和2年に本県で発生した処分羽数450万羽という事例に迫る未曾有の危機だったが、3支部の素早い対応により、被害を抑え地域の安全に大きく貢献した。



豚熱・鳥インフルエンザの防疫支援活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 新潟県建設業協会 新発田支部（新潟）

令和6年8月、新発田市の養豚場において、県内初感染となる豚熱の発生が確認された。

県との協定に基づく要請を受け、協会新発田支部の会員企業は殺処分豚の運搬・埋却作業の体制を整えた。作業には会員33社が従事し、建設機械等をはじめ多くの資機材を投入して、夜間の埋却作業にも努め、全埋却物の投入及び埋戻しを完了した。

また、令和6年11月には、胎内市の養鶏場において、鳥インフルエンザの発生が確認され、こちらも県との協定に基づく要請を受け、会員企業が埋却予定地の伐木・整地に取り掛かり、殺処分鶏の運搬・埋却作業の体制を整えた。作業には会員33社が従事し、24時間体制で埋却作業に努め、全埋却物の投入及び埋戻しを完了した。



高病原性鳥インフルエンザ防疫活動について

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 岐阜土木工業会（岐阜）

令和6年11月、本巣市において、高病原性鳥インフルエンザが確認された。

県からの要請により、岐阜土木工業会は殺処分される鳥1.5万羽を埋却することで準備を進めたところ、地下水汚染の点から鳥を焼却することになった。

しかし、鶏舎が住宅地に近く、また住宅地から離れた場所の選定も困難であったため、最終的には河川敷にて焼却することにした。

焼却作業は、平成22年11月に島根県で実施して以来、国内2例目である。

国の担当者を含めて経験がない作業員が従事し、かつ、強風の中の焼却であったため、細心の注意を払い、夜間の監視を含め昼夜問わず作業を実施し、9日間で完了した。



鳥インフルエンザに係る防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

高鍋地区建設業協会（宮崎）

令和6年12月、川南町にて発生した鳥インフルエンザについて、発生箇所管内を所管とする高鍋地区建設業協会が、迅速に防疫対応を務めた。3日間で約3.5万羽を5社（延べ13名）で埋却作業を実施した。



鳥インフルエンザに係る防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

串間市建設業協会（宮崎）

令和7年1月、串間市にて発生した鳥インフルエンザについて、発生箇所管内を所管とする串間市建設業協会が、迅速に防疫対応を務めた。3日間で約3万羽を10社（延べ23名）で埋却作業を実施した。



水防伝達訓練及び旧芳賀建設会館を使った訓練

防災支援活動

一般社団法人 栃木県建設業協会 芳賀支部（栃木）

協会芳賀支部は、Webオンライン会議システムを使用した水防伝達訓練を平成27年より実施している。

内容として、台風の接近により県内各地で未明より大雨が降り、大雨洪水警報が発令され協定に基づき管内のパトロールの依頼を受けた芳賀支部が「道路・河川等管理情報システム」を可動させ、情報伝達を行うものである。

また、令和6年は上記訓練に加え、新建設会館完成に伴い取り壊される「旧芳賀建設会館」を、芳賀地区広域行政組合消防本部が実際の建物での火災・震災対応訓練を実施する建物として提供した。

この訓練は、芳賀郡1市4町の各消防署・分署から約50名の隊員が参加する大規模なもので、建物に充満させた煙の中での消火活動、屋外からの屋内への搜索・救助活動、狭い空間からの救出活動など、より実際の災害・火災現場に近い臨場感あふれる実践的な訓練が行われ、今回の訓練で、地域の防災力向上にも貢献した。



防災訓練の実施

防災支援活動

一般社団法人 群馬県建設業協会 館林支部（群馬）

館林市の防災訓練は平成13年から隔年で開催されており、協会館林支部は青年経営者部会員を中心に毎回参加し、訓練では、他団体との連携を図りながら道路復旧などライフラインの確保の実践を行い、市民への防災に対する意識の高揚と知識の向上に努めている。

また、建設業への理解も併せて得ている。



地域との相互協力による合同防災訓練

防災支援活動

一般社団法人 塩山建設業協会（山梨）

塩山建設業協会では、地震、風水害、雪害、その他の災害が発生し又は、発生するおそれがある場合において、救出支援を行うため、広域防災の相互協力に関する協定を地域の警察署・消防本部・市と結んでいる。

平成28年7月の締結以降、毎年合同訓練を行い、連携の強化と防災力向上に取り組んでいる。



防災訓練及び水防訓練への参加、防災啓発活動

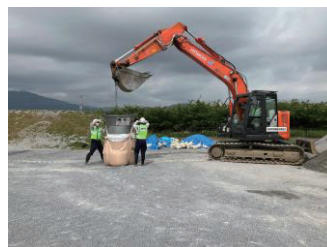
防災支援活動

一般社団法人 岐阜県西濃建設業協会（岐阜）

岐阜県西濃建設業協会は、大垣市の防災訓練に平成4年以降、継続して参加している。訓練は令和元年まで廃材を吊り上げ、荷台に乗せる倒壊物除去訓練を行っていたが、コロナ禍での中止を経て令和5年からは体験型の防災イベントとして再開された。令和6年は、作業車の展示・試乗体験、災害出動パネルの展示等で建設業の災害対応のPRに努めた。

また、大垣市の水防訓練にも平成7年以降、継続的に参加しており、令和6年は、大型重機2台を使用し、大型土のうを製作、設置する訓練を実施した。

また、平成3年に家屋の耐震相談等の防災啓発活動を開始し、以来、活動内容を変えながら継続してイベント会場での防災啓発活動を継続している。令和6年は、地震体験車による地震体験、防災クイズ、防災グッズの配布を行った。



秋田内陸線沿線の地域活性化「田んぼアート」支援事業

地域活性化への取組

北秋田建設業協会 若葉会（秋田）

平成24年、秋田内陸線の車窓から田んぼ一面のアートの相談があり、北秋田建設業協会において情報化施工への取組のため、会員企業においても最新の測量機器（トータルステーション）が使用され始めていたこともあり、当協会の若手で組織している「若葉会」の事業として情報化施工を活用した田んぼアート測量に平成25年より取り組むこととした。

秋田内陸線の平里、小湊地区に絵柄を田んぼに還元測量を実施して今年で12年目となる。

この間、田植えや稲刈りに参加するほか地元高校生が情報化施工の座学や田んぼへの還元測量に参加するなど建設業のイメージアップにも貢献した。

「田んぼアート」事業は、秋田内陸線沿線に暮らす住民の方々との交流促進と地域活性化を目指すとともに、当地域の観光振興にも大いに寄与している。



「鹿沼さつきマラソンクリーンアップ作戦」の実施

環境美化・保全活動

一般社団法人 栃木県建設業協会 鹿沼支部（栃木）

鹿沼市主催の鹿沼さつきマラソン大会には毎年多くのランナーが市を訪れるため、参加者が安全に走れるよう、協会鹿沼支部では、毎年開催前にコース周辺の清掃活動や安全点検を行っている。

また、平成17年から安全で快適な道路環境の維持向上を図るため「愛ロードとちぎ」清掃活動を、継続的に実施している。



クリーン・ビーチいしかわ

環境美化・保全活動

一般社団法人 金沢建設業協会（石川）

夏季の海水浴シーズンを前に石川の海岸線583キロをきれいにする海岸愛護運動「クリーン・ビーチいしかわ」は、身近な環境ボランティアとして平成7年から実施している。

金沢建設業協会では、平成27年度より毎年100名を超える会員企業の職員及びその家族が清掃奉仕に参加している。

令和6年度は、金沢市の健民海浜公園で行われた清掃奉仕に143名が参加した。



継続的な献血活動

社会福祉活動

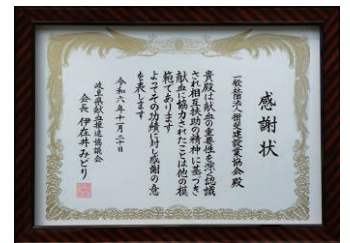
一般社団法人 揖斐建設業協会（岐阜）

揖斐建設業協会では、新型コロナの影響により「輸血用血液が不足している」状況を知り、令和2年11月に岐阜県赤十字社の協力を得て、協会員による献血活動を始めた。

この活動は令和4年度より県下の各地区協会にも波及し、献血活動を実施する協会が増えている。

令和6年11月には、岐阜県献血推進協議会より感謝状が手渡された。

今後も、地域の社会貢献活動の一環として、可能な限り継続的に実施していく。



三重県内の豪雪に伴う除雪応急復旧活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

株式会社 近藤組（愛知）

令和7年2月の大雪に伴い、三重県内において高速道路や一般道の予防的通行止めが行われた。

このため、中日本高速道路名古屋支社より近藤組に協定に基づく応援要請があり、夜から出勤に備えて体制を整え、翌日夕方の出勤要請で人力の除雪作業を実施した。

この応急復旧業務が評価され、NEXCO 中日本 名古屋保全サービスセンター事務所長より、感謝状を送られる予定である。



地域ぐるみの避難訓練

防災支援活動

株式会社 前田建設（鹿児島）

この活動は、近隣の保育所と災害時の避難支援など協力関係を令和4年7月に結んだことから始まり、合同避難訓練として令和4年12月に第1回目を行った。

地震後の津波を想定した津波避難訓練は、園児・保育士・前田建設の計88名が参加し、近隣の高台まで、交通誘導や物資の運搬、こどもたちの避難援助、複数の乳幼児を乗せた大型ベビーカーの牽引援助などを行った。

令和5、6年度は、さらに地域住民の自治会にも声をかけ賛同いただき、100名を超える大規模な合同訓練となった。

津波や火災などの自然災害時に迅速に対応できるように、「地域ぐるみの避難訓練」を今後も継続していき、地域住民と共に「地域の防災強化」に繋がるよう取り組んでいく。



中津万博(大阪・関西万博 TEAM EXPO 2025 プログラム 共創チャレンジ)

地域活性化への取組

西田工業 株式会社 大阪本店（大阪）

コロナ禍で地域のイベントがすべてなくなり、地域の楽しみや多世代の交流が無くなってしまった子ども達のために何かできる事はないかという思いから、地域の住人・企業と協力し、中津万博を開催した。

「未来の中津をかんがえよう」をメインテーマとして、自治体や企業によるブース出展、飲食コーナーやゲームコーナーなど老若男女問わず楽しめるイベントとして多数来場をいただき、令和4年から開催を重ねるにつれてコンテンツも多種多様になり関わる人も多世代に広がりを見せている。

西田工業としては、実行委員会の立上げ時から企画・運営に参画したほか、自社ビルでのアート作品の展示や、一部をパブリックスペースとして開放し、物販、トークやメタバースのイベント開催・WEB配信など、「地域に開く建設業」として様々な方々と一緒になって地域活性化に取り組んでいる。



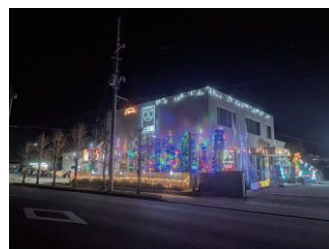
SDGsに基づく環境美化活動や地域の活性化

環境美化・保全活動

株式会社 太田組（宮城）

太田組では、例年6月と11月に会社前の植樹帯へ花を植える活動を行っている。かつては銀杏の落ち葉が積もる場所だったが、約25年前から少しずつ土の入れ替えを行い、花を植え続けてきた。現在では植樹帯が地域の景観の一部として定着し、社員はもとより地域住民にとっても欠かせない存在となっている。

また、10年前よりクリスマスイルミネーションの設置を行っており、毎年12月上旬から1月中旬頃まで点灯している。中には、遠方から家族を連れて見に来られる方もおり、地域へ波及効果を及ぼしている。

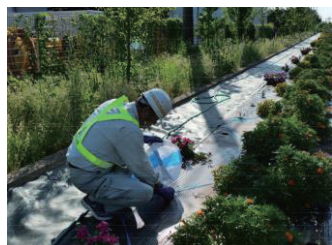


道路の美化清掃活動

環境美化・保全活動

岩澤建設 株式会社（栃木）

岩澤建設では、国土交通省、足利市と協定を結び、国道50号の歩道植樹帯を、年間を通じて除草や植樹、清掃活動などの美化清掃ボランティア活動を実施している。



清掃ボランティア活動

環境美化・保全活動

上原建設 株式会社（群馬）

上原建設は、毎年清掃ボランティアに社員が全員参加し、自社トラック等を使用して、平成25年に初めて実施し、コロナ禍の令和2年を除き継続して11回実施している。

令和6年は下仁田ジオパークの青岩公園内を刈り払い機、ブロワー、鎌、ノコギリ等を使用し雑木の伐採、公園の看板の設置斜面の草刈り、ゴミ拾いを実施した。

建設業者としてのノウハウを活かし地区の方、他のボランティア活動では出来ない、足場の悪い危険な河川地域内の木や、草などを伐採した。

ジオパーク協議会の方や近隣住民の方に喜んでいただき、町の広報紙にも毎年その活動を紹介されている。



甲州市塩山東公民館 草刈り・清掃

環境美化・保全活動

植野興業 株式会社（山梨）

甲州市塩山東公民館の公園内には鉄棒やブランコ・滑り台等があり普段から近隣の子ども及び保育園児がよく利用している。夏季は子どもたちが遊べなくなるほど雑草が生い茂り、館庭や通路、駐車場脇にあるツツジの枝が伸び、植え込みもはみ出すことから、公民館利用者の駐車や公園の利用にも支障をきたしている。

植野興業では10年前から草刈りやツツジの植え込みの剪定及び周辺の川辺や歩道等の清掃ボランティアを毎年夏季を中心に行っている。



地域環境美化活動（黒沢川落下防止柵塗替え）

環境美化・保全活動

富士島建設 株式会社（山梨）

黒沢川は韮崎市内を流れる富士川水系塩川支流の一級河川である。昭和52年に河川兼用工作物管理協定を山梨県及び韮崎市が締結し、市が落下防止柵を設置・管理を行っているが、落下防止柵も経年劣化などにより塗布してあるペンキが剥げ落ち、錆も目立ち景観が損なわれている現況にあった。

黒沢川沿いに位置する富士島建設は、地域環境美化活動として社員による黒沢川沿い落下防止柵のペンキ塗り替え作業を、令和4年から3カ年にわたり地域住民の理解と協力を頂く中で取り組んできた。

作業終了後には地域住民から「気持ちよく通学・通勤ができるようになった」「爽やかに朝の散歩ができる」等々、感謝の意が伝えられている。

今後も地域の方々が、より過ごしやすく日常の営みを送って頂けるよう、積極的に活動していく。



六条南公園、岐阜駅前の毎月のボランティア活動

環境美化・保全活動

内藤建設 株式会社（岐阜）

内藤建設では、平成19年より社員による岐阜駅北口駅前広場と六条南公園の清掃活動を毎月実施している。

岐阜市への社会貢献のために、長年にわたり地域の清掃美化活動に力を入れている。

本取組以外にも、長良川を美しくしよう運動（年3回）にも、積極的に参加している。清掃美化活動を通じて、地元の方々や岐阜を訪れた方に、美しい岐阜を身近に感じてもらえるよう、今後も地域に貢献したいと考えている。



継続的な地域貢献活動

環境美化・保全活動

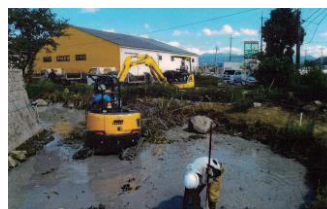
株式会社 大野組（滋賀）

大野組は、令和6年度は甲良町内の「在士高虎公園」においてボランティア清掃活動を実施した。

地域住民の手ではどうしてもなかった親水公園のうっそうと茂る水草を重機等で除去し、除去した水草はトラック数十台分になった。

同公園は、長年地域住民の手によって清掃管理を行っていたが、少子高齢化により維持管理が困難となり水草が公園の象徴である藤堂高虎騎馬像を覆いつくし全容が見えない状態となっていた。そこで「建設業で培った技術を地域へ還元したい」との思いから、重機を駆使した水草除去と美化活動が無償で行う事を決め、社長はじめ従業員総出で酷暑厳しい中での作業を実施した。

大野組は、過去10年以上に亘り、地域の運動公園野球場整正作業や小学校のグラウンド等の除草作業、豪雪時には小学校の通学路の人力での除雪作業など、毎年様々な地域貢献活動が無償で実施している。



毎月の地域一斉清掃活動

環境美化・保全活動

株式会社 大城工業所（兵庫）

大城工業所は、社会貢献・地域貢献として平成29年より月に1回近隣の清掃活動を実施している。

清掃活動は、地域を4分割し、月1回地域を回りながら環境美化活動に取り組んでいる。特に地域からの要望がある場合は、その場所を優先し実施している。

地域の方からは、「地域のために清掃していただいてありがたい。今後も清掃活動を続けていくことで、小中島地区がゴミのない住みやすい街づくりとなることを期待している」との声をいただいている。

この継続した取り組みにより、尼崎市からコミュニティ活動の中核となり実践活動を推進することでより豊かな地域社会づくりに貢献したとして令和6年度「コミュニティ活動功労者」として表彰を受賞した。

今後も、清掃活動を続けていきながら、ゴミのない街づくり、住みやすい街づくりを展開していきたいと考えている。



クリーン活動

環境美化・保全活動

三宅建設 株式会社（兵庫）

三宅建設では、平成25年8月から『クリーン活動』として、毎月清掃活動を実施している。

活動にあたっては、社長をはじめ社員全員で黄色のキャップをかぶって取り組んでいる。活動の範囲は、事務所周辺を中心に、東は日岡公園 西は日岡駅までの道路・駐車場・側溝までとしており、本活動は11年7ヶ月間継続している。

近隣の方から「おはようございます。ご苦勞様です」と声をかけられることもあり、地域に根付いた必要とされる企業づくりを目指して日々取り組んでいる。

平成29年には加古川市大野町内会から環境美化への貢献に尽力したとして感謝状の授与を受けたほか、加古川市が進めるアダプトプログラムに登録し、令和5年に多年にわたる功労として感謝状の授与を受けた。



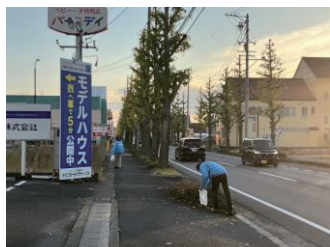
豊平小学校 側溝清掃

社会福祉活動

丸彦渡辺建設 株式会社（北海道）

平成25年頃、豪雨の影響によりグラウンドの排水状況が悪化、水たまりが発生するという問題が発生し、丸彦渡辺建設は豊平小学校の側溝に溜まる泥の清掃活動を開始した。活動の頻度は約2年に1回、継続的に行っている。

令和6年度は社員約40名が参加し、清掃を行った。また児童の安全を考慮し、割れていた側溝蓋20枚を交換した。



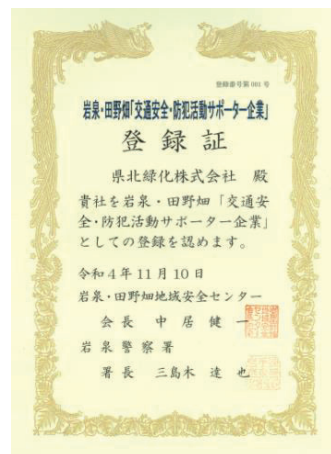
長年に亘る地域の交通安全・防犯活動への尽力

社会福祉活動

県北緑化 株式会社（岩手）

県北緑化は平成24年以降、通学路の交通安全警備や指導、交差点の除雪、全国地域安全運動への参加、祭り会場での交通安全グッズの配付等、地域の交通安全・防犯活動へ尽力している。

平成30年9月、令和4年10月に東北管区警察局長表彰、令和5年11月には県知事より表彰を受けるなど、多くの実績が認められ岩泉・田野畑「交通安全・防犯サポーター企業」として県内では初めて登録され活躍している。



地元支援学校・支援学級等の生徒との協働活動

社会福祉活動

株式会社 佐藤組（岩手）

佐藤組では、令和3年度から地域の支援学校との協働事業として様々な活動を継続的に実施している。

令和6年度は当社南庭を体験農園とし、畝立、サツマイモの植付生育管理及び収穫を生徒と実施した。また、令和3年度は掲示板を協働作成。令和4年度は公園のベンチ補修を協働作業で実施。令和5年度は中学部の学生とすのこと本棚を協働で作成し、さらにそれを地元保育所に寄贈した。

これらの活動が、北上市まちづくりマッチングフェアに参加した23団体中、大賞に次ぐ「こども・子育て応援賞」の受賞となった。



豪雪時における児童の安全確保のための除排雪作業

社会福祉活動

小白川建設 株式会社（山形）

小白川建設は、毎年、積雪や除雪で寄せられた雪が路肩にうず高く積み、見通しが悪くなったり道路幅員が極端に狭まり、車と歩行者が接触する危険性があるため、除雪活動を実施している。豪雪となった今冬は、近隣の小学校の通学路において、通行する車両の安全確保と児童の登下校時の事故防止、また地域住民の安全な移動手段の確保を目的に、タイヤドーザとダンプを使用し、ボランティアでの除排雪作業を行った。

同様の除雪作業は、過去の豪雪時にも幾度となく実施してきており、最近では、令和4年1月や令和3年1月、平成30年2月にも実施し、その都度地域住民や児童と保護者から感謝の声が寄せられている。

今後も地域住民の安全を守る地元企業であるために、このような活動を継続していく。



福祉施設誘致による地域コミュニティの創造

社会福祉活動

塩谷建設 株式会社（富山）

塩谷建設では、令和2年4月より敷地内に福祉施設を誘致し、地域コミュニティの創造を目指している。

学童保育、訪問看護ステーション、多機能重症児デイサービス、相談支援事業所などで、地域住民の生活拠点として、活用していただいている。

これらのところで、健常児と障がい児の交流、子どもと社員・高齢者との交流を行うことで、地域交流のきっかけづくりにも尽力している。

将来的な展望として、少子高齢化問題の解決を目標としている。



長年にわたる子ども110番の家

社会福祉活動

株式会社 藤井組（富山）

藤井組は、小学校の近隣に位置することから、不審者等から子どもを守り、安心して子どもたちが学校に通える地域づくりを支援するため、平成20年から「子ども110番の家」のボランティア活動を行っている。

活動内容としては、子どもが助けを求めてきたときに保護をしたり、いつでも駆け込める体制を整備し、早急に関係機関へ通報できるようにしている。また、本社前の通学路には「子ども110番」ののぼりを立てて、防犯に対する地域の関心を高めるとともに、社用車に「子ども110番」のシールを貼り、犯罪者の近寄り難い雰囲気を作り出して、地域に貢献している。



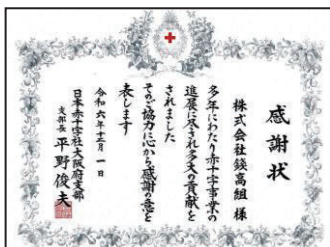
献血推進活動

社会福祉活動

株式会社 銭高組 大阪支社（大阪）

銭高組大阪支社では、平成22年に献血サポーターに登録以降、積極的に献血活動を推進し、年2回、これまで計27回の献血活動を実施している。

令和6年12月に日本赤十字社大阪府支部長より感謝状を拝受した。



地域資源を再活用した国内資源肥料の利用拡大

SDGsへの取組

株式会社 中屋敷建設（青森）

中屋敷建設は、令和3年にSDGs認証を取得し、三沢市浄化センターから排出される「排水処理活性沈殿物」を発酵させ肥料化する事業に取り組んでいる。

下水污泥肥料を製品化する際に、甘味料として知られるステビアの粉末を混ぜ合わせ「ステビアキング」を製造。さらに令和6年12月には、菌体りん酸肥料「ステビアキングA（エース）」が新しく誕生した。

下水污泥肥料には大量の微生物が含まれていることから有機物の分解・発酵を促進し土壌改良効果を高め、継続することで土壌が豊かになり、作物の収穫量増加、化学肥料の削減や地球温暖化緩和、水質保全など農業面でも環境面でもメリットがある。

本事業を通じ、持続可能な農業生産と循環型社会の形成地産地消に貢献できるよう、引き続き取り組みを進めていく。



建設産業出前授業

建設業ふれあい活動

一般社団法人 甲府地区建設業協会（山梨）

甲府地区建設業協会は令和4年から継続的に中学生や高校生を対象に出前授業を実施している。

中学校では、地域の守り手として建設業の社会的役割を説明、建設業で働く魅力を伝えた。高校進学を決める前の中学生に、ICTを活用したドローンや最新の測量・施工技術、建設重機等に触れてもらうことにより、建設課程高校への進学意欲を高めてもらう機会をつくった。

高校では、建設業が担う役割の重要性ややりがい、ICT等を活用した現場の生産性・安全性の向上などの現在の姿を伝え、建設業の魅力と若者活躍推進を伝えるために技術者講義も行った。さらに建設機械の実演・演習も行い、締め固め用建設機械、移動式クレーン、油圧シャベル等を用いて生徒に試乗体験してもらった。

建設産業で働く魅力を発信することにより、建設系学部への進学や建設業界への就職につなげる。



小学校での建設機械等の乗車体験会

建設業ふれあい活動

一般社団法人 身延建設業協会（山梨）

身延建設業協会では、建設業の担い手確保とイメージアップを図るために、地域の小学1、2年生の国語の「じどうしゃくらべ」の授業で登場する機械を実際に体験してもらう乗車体験会を実施した。

体験会では校庭にショベルカー、ホイールローダー車、パトロール車、クレーン車、高所作業車等を配備し、それぞれの種類や説明を行った後、乗車体験や記念撮影を行った。



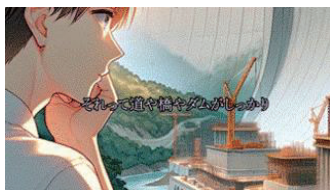
中学校体験学習・防災学習会の開催

建設業ふれあい活動

一般社団法人 長野県建設業協会 青年部会（長野）

協会青年部会は、中学校での体験学習会を企画し、学習の前に生徒に建設業のイメージについてアンケートを行ったところ「過酷労働」「大変」「危険」「重労働」「家・建物を作る」という回答が約70%もあり、建設業を正しく認識してもらう必要があると考え、内容を見直し開催を継続してきた。

学習会の内容として、建設業は災害発生時には、自衛隊・消防より先に現場に駆け付け、応急対策や復旧工事を行い、生活に必要な道路・橋・トンネル等を造っていること。地域を守り・支える仕事であること。技術革新も進んでいて建設機械の自動化・遠隔操作や、3Dデータを使用し完成予想図を作成することで部材・配管の設置位置を確認できること等を、アニメーション・写真等を使用した動画や、建設機械の試乗を通じてアピールしている。引き続き県内全域への展開を目標に、活動を行っていく。



親子現場見学会の開催

建設業ふれあい活動

一般社団法人 静岡建設業協会（静岡）

静岡建設業協会が実施する「親子見学会」は、親子のふれあい、参加者同士の交流を楽しみながら、建設業への理解を深めていただくことを目的として、働きながら一人で子育てをしながらはならないひとりの皆さんに、親子の時間を持つ機会や同じ境遇の皆さんが情報交換をする場として、建設工事現場を含めた見学会を、平成11年より継続して実施している。

これまで、中部電力の浜岡原子力発電所、沼津河川国道事務所の狩野川放水路、静岡県の新々富士川橋の整備事業など、様々な機関にご協力いただき事業を進め、令和6年度は、中日本高速道路沼津工事事務所の新東名新御殿場ICから県境に掛けてのトンネル・橋梁現場を視察させていただき、参加者は普段立ち入ることのできないトンネル内を歩くなど、その空間の大きさを直接感じる、日常では味わうことのできない貴重な体験ができた。



2024 in shima 建設フェスタ&商工会まつり

建設業ふれあい活動

一般社団法人 三重県建設業協会 志摩支部（三重）

協会志摩支部は志摩市、志摩市商工会との共催で、志摩市20周年を記念した「建設フェスタ&商工まつり」を開催した。

志摩支部は、建設業や工事に興味を持ってもらおうと企画し、工事現場で活躍する建設機械・車両を展示し、重機と間近で記念撮影、高所作業車の試乗、ミニパワーショベルを用いたボールすくい、また、測量機器を利用した宝探し等の催しものを実施した。当日は約1万人が来場し賑わいをみせた。



地域イベントで建設業の役割をPR

建設業ふれあい活動

一般社団法人 羽咋都市建設業協会（石川）

羽咋都市建設業協会は令和6年10月、「はくい福祉まつり」に参加し、建設業への理解と関心を深めてもらえるように、建設機械体験試乗会やパネル展示などにより、建設業の役割を紹介した。「はくい福祉まつり」は、交流やふれあいを通じて福祉への理解を深めるための催しで、当日は約8千人の来場者があった。

羽咋都市建設業協会では平成26年度より建設業ふれあい活動の一環として、建設業を身近に感じてもらうため、園児や小学生を対象に、今回のような建設機械の体験試乗会を実施しており、今後もこうした活動に積極的に参加して、地域との絆を大切にしていきたいと考えている。



イメチェンイルミ2024 inわかさ

建設業ふれあい活動

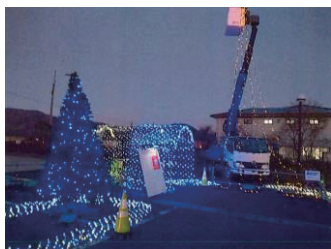
一般社団法人 若狭地区建設業会 建設青年委員会（福井）

若狭地区建設業会建設青年委員会は、昨今の若手・担い手不足に悩まされている建設業界において、次世代を担う子ども達や若い世代に建設機械に触れ、興味を持ってもらい、イベントをきっかけに一人でも多くの入職者を増やすことを目的に「イメチェンイルミ2024 inわかさ」を開催した。

イベントでは、重機等6台や塩ビパイプで製作した北陸新幹線模型にLEDの電飾を装飾し、夜間に点灯させるナイトイルミネーションや、重機乗車体験会を実施した。令和4年から実施し令和6年で3回目となる。

ある程度地域にも認知され、週末およびクリスマスを中心に家族連れ等の約500名の方が来場していただいた。

また、期間中実施したアンケートでは、好意的な意見が多数あり“イメチェンイルミ”というタイトルどおり建設業のイメージチェンジが図られた。



除雪カードの作成・配布

広報ツール、アイテムの活用による広報活動

一般社団法人 栃木県建設業協会 日光支部（栃木）

協会日光支部では、県内有数の降雪地域である日光市の住民及び観光客の安心・安全、世界遺産日光の未来を創る建設業が果たす役割を知ってもらい、建設業に興味をもってもらうため、会員企業が除雪作業に取り組む様子を写真に収めた7種類の除雪カードを作成した。

令和6年11月より、日光支部の窓口で配布するだけでなく、栃木県道路公社と協力し、日光道の閑散期交通量増加対策として日光パーキングエリアでも配布した。

県内外からたくさんの方が除雪カードを求めて訪れていただき、一般市民の方々にも建設業の除雪作業への興味・関心を持っていただけた。



継続的な建設業の魅力発信活動とヘルメット寄贈

建設業ふれあい活動

株式会社 オオバ工務店（福島）

オオバ工務店では、令和3年から毎年、地元の工業高校建築科の生徒をインターンシップとして受け入れ、生徒が自己の職業適性や将来設計について考える貴重な機会を提供している。

ある時、インターンシップにきた学校の生徒のヘルメットを確認したところ、耐用年数の過ぎたヘルメットを使用しており、これから建設業界を支える人材として活躍してもらうためには、安全の確保が何よりも大事と考え、以来、毎年、協力会社と共に、同校建築科新入生ヘルメットの寄贈も行っている。

今後も、ヘルメットの寄贈活動を継続し、将来の担い手の確保に向け、建設業の役割や魅力を若い世代に伝えていく。



次世代の若者へ建設業に対する理解と建設業の必要性、魅力、興味を発信するために

建設業ふれあい活動

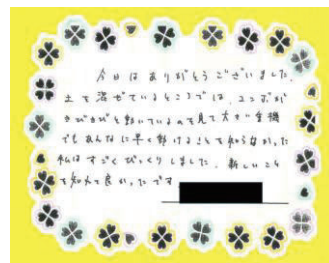
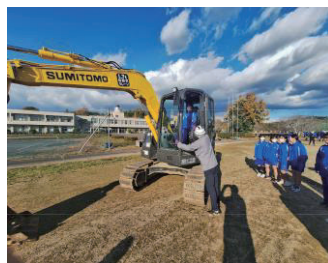
株式会社 竹島建設（三重）

竹島建設は、地元中学校の通学路の除草作業を行うに当たり、出前授業を提案したところ学校側からも実施の要望をいただいたことから、令和4年7月に座学を中心に建設業の必要性和意義、魅力を説明する出前授業を実施した。

以降も、令和5年度はラジコン草刈り機の操作体験やドローンの操作体験を行い、令和6年度もラジコン草刈り機の操作体験、タブレットハンディスキャナーによる3D体験、10tダンプの試乗体験、バックホウの試乗体験を行った。

出前授業体験により実際建設系高校に数人が進学したほか後日温かいメッセージもいただいた。

今後も出前授業を継続し、建設業者として次世代の中学生に建設業の必要性和魅力を発信していく。



トンネルが結ぶ！ふれあいの輪

建設業ふれあい活動

戸田建設 株式会社 大阪支店（大阪）

戸田建設大阪支店では、新名神高速道路宇治田原トンネル東工事において、地元見学会を年に2回積極的に開催している。近隣の住民の方々や学生たちとの交流を目的とし、定期的に実施することで工事進捗の確認や建設業の取組を知ってもらう絶好の機会である。見学会の際には、催し物も企画し、好評を得ている。

また、日々の暮らしに建築・土木がどのような役割を果たしているのか知ってもらうイベントを実施し、当日は、KBS京都ラジオでおなじみのパーソナリティも参加し、トンネル現場見学会の状況を生中継した。「トンネルができるまでの流れを知ることができた。今後トンネルを通るときの気持ちが変わった、かっこよかった」など励みになる言葉をいただいた。

今後も同現場に限らず、社会貢献や建設業のPRを継続して行っていく。



働く車見学会の開催

建設業ふれあい活動

福井建設 株式会社（兵庫）

福井建設では平成29年より、地元の小学生を対象に建設業ふれあい活動「働く車 見学会」を開催している。

建設業に関わる機械（ドローン）や、重機（ショベルカー・除雪車・ミキサー車・ダンプ車等）を用意して、子供たちに実際に目で見て触って乗車体験をしてもらい、各車両の役割や特徴などを説明している。

子供たちは、重機を見かける事はあっても、実際に乗車する機会にはほぼなく、重機が動いたときには、今までお喋りをしていた子供たちが息をのむように見つめ、動く重機や機械に圧倒され、目を輝かせていた。毎年実施後には、小学生の皆さんから感謝状をいただき好評をいただいている。

建設業に触れる機会を設け、建設業の魅力を感じ、いつか将来建設業に携われるキッカケに繋がれば、という思いで、継続的に実施していく。



中高生への建設業の魅力を伝える出前事業

建設業ふれあい活動

株式会社 井原組（山口）

山口県土木建築部では産官学連携の「山口県地域を支える建設産業担い手確保・育成協議会」を平成26年度に設置し様々な人材確保対策を実施している。

その事業の一環として、中高校生向けに建設業への魅力を伝える出前授業「建設ゼミナール」を平成26年度から令和6年度までの過去11年間にわたり実施している。

井原組では、「建設ゼミナール」において長年、講師を積極的によく務め、中高生へ建設業の魅力を伝えている。



国分小学校『しごと村』

建設業ふれあい活動

淵脇建設 株式会社（鹿児島）

淵脇建設は令和3年から霧島市立国分小学校の4年生を対象にした『しごと村』に参加し、『まちのために つくる なおす たすける』をスローガンに、建設業がどんな役割を持っているか、どんな仕事をしているのかを小学生目線で分かりやすく説明し、興味や理解を深めていただいている。

『建設業ってどんな仕事？』を題材にスクリーンを使った説明やドローンや測量機などICTの説明、空調服やヒートベストの仕組みなど、実際に見て触れたり、写真を撮ったりもした。

しごと村を終えた児童からは、毎年、「建設業の事をもっとたくさん知りたい」「ぼくもこんなカッコいい仕事をしたいです」といったお礼のお手紙が届いている。

建設業の魅力が一人でも多くの児童に伝わり、将来の夢の道しるべになることを期待しながら、今後もこの活動を続けて行く。



SNSによる建設業や自社の魅力UP発信活動

SNS、映像、メディアによる広報活動

株式会社 斉藤組（富山）

斉藤組では広報活動の一環として、令和3年9月にXの公式アカウントを開設した。

社内の日々の様子や、現場の施工プロセス、会社の紹介などを発信、SNS上で県内外建設業社との情報交換はもちろん、建設業以外の方との交流を通して、建設業の実際の仕事内容について少しでも知っていただけるきっかけづくりを行っている。

フォロワーは現在170程度とまだまだ少ないが、業界や自社のPR活動として今後も活動を継続していく。

また、令和3年8月より地元南砺市の「なんとSDGsパートナー」に登録し、建設業としてSDGsを取り入れたまちづくりに賛同し、南砺市とのイベントなどで自社のSDGsを取り入れた活動をPRしているだけでなく、SDGsに関する、異業種他社との交流・意見交換を行い、建設業の取組もPRしている。



総フォロワー約2万「即時性」「地域密着」「見える化」

SNS、映像、メディアによる広報活動

株式会社 山藤建設（鹿児島）

山藤建設では、X、TikTok、Instagramを主とした広報活動を行い、それぞれのSNSの特性によって差別化しながら継続的に進めている。

Xでは、即時性の高い情報をメインに発信し、豪雨・豪雪等の状況を動画で発信したことで、TV等にも採用されている。

TikTokでは、見栄えする大規模な工事の動画ではなく、地域に根差した小さな道路陥没や商店街の歩道、小学校の通学路の修繕などの様子を投稿し、地域住民の生活に密着した身近な小さな工事を発信している。

Instagramでは、タイムラインに表示されるのは1枚目の画像のみであるため、同じ画角の2枚目着工前写真と完成写真を並べ1枚の画像で伝えるBefore & Afterを発信している。

全国各地の企業と相互フォローの関係性を築き、毎日投稿を行うことで発信力を維持拡大している。



オリジナル絵本による建設業のイメージアップ

広報ツール、アイテムの活用による広報活動

株式会社 加藤建設（愛知）

加藤建設では、令和6年9月に「桃太郎がやってくる〜どうなる鬼ヶ島！？〜」という建設業をPRする絵本を製作した。

怖そうに見える鬼たちを建設業、桃太郎は世間の目をイメージし、一見怖そうに見える鬼たちが、本当は人々の安心・安全な生活を支えていてスゴイ技術をもっているという内容になっており、この物語を読んで、少しでも建設業っていいなと感じてもらえるように考えた。

製作した絵本は、地元の子育て支援のNPOを始め、保育園や幼稚園、小学校や弊社の拠点がある地域の図書館などを中心に全国に献本した。

また、新聞掲載やラジオ・SNSにて告知したところ、一般の方から業界の方まで献本依頼が多くあり、今までの建設業のイメージが変わり子供たちに伝えたいとのメッセージも多くいただいた。

今後もこの絵本を通じて、建設業界のイメージアップ広報を進めていく。



映画CM・テレビCM放映及びテレビ番組出演による建設業のイメージアップ

商業広告による広報活動

草野作工 株式会社（北海道）

草野作工は、建設業のイメージアップにつながるCMを制作し、映画・テレビにて放映した。CMの内容は4パターンを作り、社会基盤整備に携わっていること、建設DXでスタイルが近年、変革してきていること、地域とともに発展し地域を創造していること、働き方改革の取組が進められていること等、それぞれのテーマで映画やテレビでCMを放映し、建設業のイメージアップを図った。

また、テレビ番組にも出演し、建設DXの現状について取材を受けするなど、積極的に参画し、建設業の取組をPRしている。



アニメCMによる建設業界及び自社の広報

商業広告による広報活動

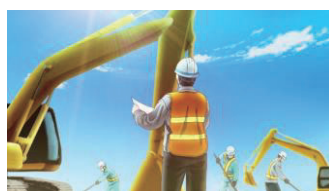
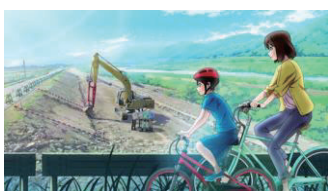
安達建設 株式会社（富山）

安達建設では、令和4年度よりテレビCMにてアニメ調コマーシャルを放送している。

自社のアピールを主目的としつつ、地域の方や子どもを持つ親世代の方々に建設業界を広く知ってもらう目的も含め、コマーシャル放送を利用することとしている。アニメ調にすることで、若い人にも目につきやすく、若手人材不足の建設業界において少しでも状況改善に貢献できればと考えた。

また、内容として、男女関係なく一緒に働いている様子や協力業者と打ち合わせしている様子、力仕事だけではなくパソコンで作業している様子なども入れ、建設業のイメージアップに心がけ、要所に地元南砺市の風景を織り込み、建設業で働くことで地元貢献した働き方ができるようなイメージを持ってもらえるような構成に努めた。

コマーシャルはテレビ放送にとどまらず、昨今のSNSの劇的な普及も鑑みYouTube、Instagram、HPでも掲載しており、各メディアを通じて広く知ってもらう取組も行っている。



地域建設業は

SDGsの担い手
地域の守り手



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「地域建設業
SDGs経営指針」に
ついてはこちら



